

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	骨格となる、利用者の尊重、安心や優しさを基に利用者の生活を支えていくことを念頭においた理念となっている。		理念について、より理解を深めるため、取り組むことを具体的にしたものをつけ加えてエレベーター前に掲示している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス(月1回)やユニット会議(月1回)の際には、理念に基づき、ホームとしてのより良いケアが提供できるよう話し合い、実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに明記するとともに、来園者の目に留まるようフロア内に掲示してある。家族との相談や打ち合せ時には、理念に基づいた援助の理解が得られるよう勤めている。		グループホームがどんなことを行っているのか知ってもらうために、地域の方々が集まる機会(特養の文化祭など)に、グループホームの日常を写真で紹介した。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際には、畑作業や庭の手入れをしている近隣の方々と挨拶を交わすことはもちろんであるが、立ち止まって話をすることも多い。地域の方から、生産された野菜などの差し入れを持ってきてくださることもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事をはじめとし、近隣の保育園、小学校より声を掛けていただくことが多くあり、できる限りの参加を心がけている。近くの神社やお寺にお参りに出掛けることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特別養護老人ホームの本体で見附市の委託事業としての介護予防教室を行っており、その参加者が帰りに立ち寄ることはあるが、グループホームの取り組みとしては実施していない。		地域行事等に参加することで、きっかけ作りにつながるようにしていきたい。また、運営推進会議においても意見をもらえるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んだ。		今回が初めてであり、外部評価については全職員が充分理解したとは言いがたいが、今後取り組むべきところは、しっかり取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動内容や、日常の様子、入居後のご利用者の経過等を明示している。		2ヶ月に1回のペースで定期的に運営推進会議を開催していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	見附市地域包括支援センターの職員に経過を報告したり、見附市主催の研修に参加するなどして交流を図り、情報収集やスムーズな連携など質の向上につながるよう取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、施設全体で理解を深めるようにしている。グループホームでは早急な対応が必要であるケースは無く、相談があった場合は管理者が対応しているため、全職員の理解は不十分である。		勉強会を定期的で開催し、個々で学習する意欲につなげていかなければならない。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング、ユニット会議などで話をするなど、高齢者虐待防止法について理解を深めるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとってしっかり説明している。特に起こり得るリスクや、重度化や看取りについて詳しく説明するようにしている。医療連携体制についても実際に行っていることなど細かく説明して、理解していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のわずかな不満であっても、職員個人にとどめず、共有することで解決に向けて取り組んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には日頃のご様子を必ず伝えている。日常の様子や外出、イベント等の写真をファイルに綴り、随時見ている。始めたばかりではあるがホーム便りもご家族へ送っている。金銭管理については現金出納簿に記入し、家族に領収書とともに確認後サインをいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から家族との信頼関係を築けるように努め、遠慮なく不満や苦情を話してもらえるようにしている。それらの要望等については管理者への報告し、解決に向けて協議するようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングやユニット会議、ホーム会議などで職員の意見を聞くようにしている。ユニットリーダーからもコミュニケーションをとって意見を聞くように心がけている。</p>	<p>全職員がそれぞれに意見を出し合うことができるように、コミュニケーションを十分とっていけるようにしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は、状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じることができるようにしている。退職者の補充ができていないため、柔軟な体制が充分できているとはとは言えない。</p>	<p>より柔軟な対応ができるように、職員の補充を検討している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者1名あり、またホーム内の異動が1回あったが、できるだけ利用者へのダメージを最小限に抑えることができている。管理者が、職員と話をする機会をつくっている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>法人全体のマニュアルが整備されている。いつでも確認することができるようにしている。</p>	<p>今後グループホームのマニュアルとして、適宜見直ししていく必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>毎月の法人内の研修会、ホーム内の勉強会に随時参加している。法人外の研修にもリーダーをはじめ、順に参加している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの交流を持ち、情報交換を行っている。他事業所からも意見をもらえるよう、できるだけ話しができる機会を持つようにしている。</p>	<p>開設前に行った他施設への研修や、他のグループホームへの見学など、今後もネットワークを活用し、定期的に勉強する機会を持つようにする。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内での安全衛生委員会の設置からメンタル面についての研修会があり、法人全体での取り組みが行われている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>グループホームでの出来事や、状況や変化など管理者から随時報告を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人との面談時、日常的な会話の中からも不安や、望んでいることを聴けるようにしている。得た内容は、職員全員で共有し、その人を知るための始発点となっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談の際は、家族の訴えや本人への対応の希望など十分に聴き、ケアの提供がスムーズに開始できるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受けた際に、本人の状況を確認し、ご家族の思いや、今後起こり得ることなど話し合いながら、他の事業所へつなげられる場合は確実に対応している。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人、家族が見学してもらうことから始めている。本人や家族より知り得た情報をもとに、それまでの生活パターンや日課をできるだけ崩さずに生活していただけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	散歩中に植物や野菜の名前を教えてもらったり、調理中には切り方や味付けなどを一緒に考えたりしている。		ともに生活し、同じ時間を過ごしていることを忘れないように心がけ、お互いに協力し合っているという場面が多く実感できるように声掛けを工夫していきたい。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	訪問時には積極的に話をしたり、傾聴し、家族の思いを知るように努めている。遠方の家族には適宜、電話やファックスなどで連絡や報告を行っている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	可能な限りの面会を依頼し、ホーム内でも家族でゆっくり過ごしてもらえるようにしている。家族を招いての忘年会を開催したり、家族や本人の状況により自宅への外出や外泊も行っている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	入居前より利用していた床屋や美容院へ行ったり、お墓参りにも出掛けることがある。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	利用者同士の関係性を全職員が把握できるように情報を共有し、職員も一緒に過ごす時間を多く持ちながら見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了となった利用者はいない。		今後、契約終了した後も、本人やご家族との関係性を大切にできるように継続的なかわりを持てるように努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から気持ちや希望を確認している。意思疎通が困難な方は、ご家族から情報を得るなど、家族と共に検討するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との面談時の情報を職員間で共有している。入居後も本人や家族との会話の中で、情報を得るようにしている。		充分把握できていない部分もあるため、今後も折に触れ、本人を知るための取り組みを行っていききたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	協働で作業をすることで、その人のできること、可能性を見出すようにしている。入居後しばらくは、経過を細かく記録し、生活リズムの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人のカンファレンスを家族と共に行ったり、職員間でも開催することで介護計画の作成につなげている。		日ごろのかかわりの一つひとつを軽視せず、アセスメント、モニタリング、カンファレンスを確実にし、全職員で介護計画の作成に取り組んでいきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の希望、状態変化を把握し、必要に応じてカンファレンスを開催し、3ヶ月に1回見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、職員の気づきや利用者の状態変化、本人の言動など記録している。全職員がすぐに確認できるように記録確認表もあり、勤務開始前に必ず確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、定期的、突発的受診、入退院の援助を行っている。適宜、家族や担当看護との連絡を密にしている。		重度化した場合や、医療処置を受けながらのグループホームでの生活の継続など、医療連携体制を活かした取り組みが強化できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在まで特に行っていないが、運営推進会議に民生委員も参加してもらっており、会議の中で運営についての意見をもらっている。		より地域との接点を多く持ちながら、十分に地域資源を活用していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外のサービスである「田井町シルバーだんらん室」へ参加している利用者があり、誰でも参加可能とのことから、今後も様子を伝えてもらいながら他の参加希望者を募っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。困難事例等は現在無いが、情報交換、協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム利用以前からのかかりつけ医で、できるだけ家族同行の受診となっている。家族の援助が難しい場合は職員が代行することを利用契約時に説明し、同意を得ている。本人家族の希望により往診を受けているケースもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に脳神経外科医師がおり、かかりつけ医としている利用者もいるため、信頼関係が築けるよう確実に相談、報告を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日朝、夕の連絡体制を確立している。日常の健康管理は、主となる担当看護師を中心に支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には主治医としっかり話を行っており、本人の普段の状況など情報提供している。家族とも情報交換しながら、回復状況を主治医に報告するなど、スムーズな退院につながるよう努めている。		病院の医療相談員と連絡を取り、入院前の様子を伝えたり、病院の担当看護師から入院中の様子など確実に情報を共有できるようにしている。今後も早期の退院に向けて、情報交換や相談が行いやすいように連携をとっていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化が見られるその都度、家族や本人の気持ちに注意しながら、終末期の話し合いを行っている。		家族と重度化に伴う意思確認書等の説明を担当看護師を含め話し合いを行っていく予定である。また、終末期の対応について、全職員が再確認できるようにしていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアプラン見直しの都度、または体調変化のある都度、本人、家族の意向を確認しながら終末期の話し合いを行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境や暮らしの継続性が保たれるよう、家族との情報交換を行い、生活暦等を確認して入居していただいた。リロケーションダメージについてご家族、職員ともに話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等の個人情報については、利用者および外来者の目に留まるところには置かないようにしている。言動や行動など、その人の存在やプライバシーを損ねることが無いよう周囲に配慮した声掛けを行っている。</p>	<p>施設内研修において職員への意識の向上を図り、ミーティングでは具体的に話し合う等、プライバシーを損ねない対応について日々取り組んでいきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者個々の望んでいることを見つけ出し、本人の行動に同行しながら、そのときに合った声掛けを行っている。</p>	<p>今後も利用者に合わせた声掛けを行い、自己決定ができる支援を心がけていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>休息の時間や就寝の時間などその人のペースで生活できるようにしている。食事の時間も無理にあわせることなくゆっくり時間をかけたり、時間をずらして本人の希望に合うように対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>いきつけの理美容院を継続して利用している利用者もいる。朝の化粧が日課となっている方には化粧品の補充をご家族が支援するなど行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、配膳、片付け、食器洗いまで、職員と一緒に、あるいは見守ることでその人のできることを行うことができるように支援している。昼食は職員も一緒に同じテーブルで食事を楽しんでいる。</p>	<p>一緒に野菜を作り、収穫した野菜でメニューを考え調理する事ができるように取り組んでいきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好に合わせて楽しめるように支援している。晩酌やコーヒーなど本人の生活リズムに影響しないよう注意しながら採り入れている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間、習慣を把握し、誘導することでトイレでの排泄を促している。入院時からオムツを使用した利用者にも、排泄パターンを見直してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができています。		失敗の多い方には不快とならないように随時声掛けを行い早めに交換を行っている。頻回に排泄の訴えがある方にはその都度支援し、安心できるように努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の生活習慣や希望に合わせて入浴していただいている。気分によって、入浴に時間をずらしたり仲のよい方同士で入浴してもらうなど、一人ひとりが楽しめるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促すようにしている。睡眠のリズムが安定していない方もいるが、体調や日中の活動量など状態を確認し、見直しすることを心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや畑の作業、浅漬け作りや餅つきなど、利用者の経験や得意なことを発揮できる場面を作るようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に本人と職員とで所持金の確認を行うことで、安心して自分で管理できている。希望時にはおやつやその他の必要なものを購入し、支払の際の見守りを行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、ホーム外の行事への参加や散歩、屋外での作業を行っている。		できるだけ本人の希望に添って、戸外へ出掛けることの支援ができるように、職員体制を整えたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全利用者ではないが、家族とともに他施設に入所中の親族の面会に行ったり、ご家族と市外の名所などへ出掛ける機会が度々ある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に合わせて、外部からの電話や手紙を受けられるようにしている。訪問の予定時間や、近況報告の手紙が届けられている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には利用者、職員とも歓迎し、フロアあるいは本人の居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを前提にケアを行っており、意識は統一されている。グループホーム内でも勉強会を実施し、身体拘束のないケアについて理解を深めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段室は安全のため、両側から開閉できるロックを設置しているが、必要であれば利用者自ら解除できるようにしている。また、エレベーターも自由に乗降できるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアや居室での所在確認を適宜行っている。夜間は安眠を妨げないように巡回し、介助の必要な方の居室近くで待機し見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ポットや消火器等、利用者の目に触れ、手の届くところに配置してあるが、職員が見守りを行い利用者の状況に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故などが発生した際には職員で十分に検証し、再発防止に努めている。改善策の検討や、取り組みの一定期間経過後の実施状況についても定期的に話し合っている。		事故やヒヤリハットの報告書から改善策を検討し、ミーティングにおいて今後の危険予測についてを全員が共通認識を持てるように今後も取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当の勉強会に参加している。消防署職員の指導によって救急手当や心肺蘇生についての研修を行っている。		グループホーム内でも急変時や初期対応についての勉強会を、今後も定期的に行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを基にし、消防署の協力を得て特養と連携し避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法など、年2回地域の方々と行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクを把握し、ご家族との話し合いの時間を持つようにしている。さまざまな活動や自由な暮らしを支援することで、持っている力を発揮し、明るい表情で過ごせている様子を見ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や顔色、表情など、職員は普段の様子を把握している。体調変化が見られたときや気づいたことがあったときは管理者に連絡し、状況によっては看護師に伝え医療受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を把握し、いつでも確認できるようファイルしている。薬の処方や用量の変更があれば、本人の状況変化について細かい記録をとり、看護と連携を図りながら、家族や主治医にも報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操、家事活動など適度に運動する機会を作り、自然排便を促すことができるよう取り組んでいる。利用者の便秘については、食事、排泄、活動量、水分摂取量などを見直ししている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に、歯磨き、うがいの声掛けをし、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの対応を行っている。全職員が口腔ケアの研修に参加し、その重要性を理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基本にしている。職員は一人ひとりの摂取量や水分量を概ね把握しており、状態の変化や、その人の力に応じて摂取量の調整を行うことができています。		体重や水分摂取量の増減など、変化に応じた検討について、職員全員が注意していけるように努めたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを確認し、研修会等によって学習し、予防と発生時の対策に努めている。朝、夕および外出後は緑茶うがいと手洗いをやっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品、タオルや布巾、まな板など漂白し清潔を保っている。食材も買いだめをしないように、一日おきから毎日買い物に行き、冷蔵庫内の点検は常に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かい玄関になるように季節の花を置いたり、飾り付けを変えるなどしている。		雪解け後は庭に置くためのベンチを購入する予定であり、広い庭をより活用できるように、工夫する計画がある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけを一緒に行ったり、ゆず湯などのお風呂、筍料理や餅つきなど、地元の風習を採り入れたり、利用者の生活を少しでも刺激できるように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やエレベーター前ホールに椅子やテーブルを置いたり、たたみスペースに座布団や座椅子を置き、仲の良い利用者同士でくつろげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、できるだけ使い慣れたものを活用していただいている。持ち物が少ない方も、写真やネームプレートを作成したり、本人の意向を確認しながら居室作りを行っている。		本人や家族と相談しながら、居心地よく過ごせるような工夫を今後も行っていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食後や一定の時間に換気を行うようにしている。冷暖房はこまめに調節し、温度計、湿度計を確認しながら常に気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物干しやフロアの棚、浴室の棚など利用者の状況に合わせて、作業がしやすいように居住環境を見直すようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人がどうすれば自分の力でできるか、本人の状態を把握し環境整備に努めている。状態の変化や混乱が生じた時には、個別担当を中心にスタッフ全員で話し合い、早急に対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	農作業や園芸、草取りや散歩など、思い思いの活動ができるように環境を整備している。		昨年以上に、利用者が活動しやすく、楽しめるように準備を整え、より一層活躍の場や笑顔を増やしていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者と職員がともに生活し、同じ時間を過ごしていることを忘れずに、笑顔を絶やすことなく、寄り添って、安心できる毎日を送ることができるグループホームであること。日々取り組んでいる目標ではあるが、絶えない笑顔は達成できている点だと思っている。